

科目名	必修/選択	単位数	学 年	学科・類型
書道 I	選択	2	1	理数科・普通科

科目の概要	中学校までの「書写」の授業は、「国語」の一部でしたが、高校の「書道」は、芸術の一分野です。書道は、古くは中国の殷の時代から続く文化です。文字を通して人は様々なことを伝えてきました。各時代のさまざまな書体の名筆を鑑賞すること、それを基に表現することによって、さまざまな場面に対応する書写能力を高め、それぞれの感性を磨き、自己表現することを学びます。				
教材名	教科書	書Ⅰ（光村図書）			
	副教材	改訂 基本ペン習字（教育図書）			
学習到達目標	① 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育て、書の伝統と文化についての理解を深める。 ② それぞれの感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。				
学習方法	・技法の習得は主として古典の臨書によるが、取り上げた作品・自分の作品をよく見て、自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習すること。 ・創作においては「今、自分は何を表現したいか」を大切に、詩文や用具などを積極的に選択すること。 ・考査は実施しないので、普段の授業に積極的に取り組み、課題は必ず提出すること。				
評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		書への関心・意欲 ・態度	書表現の構想と 工夫	創造的な書表現の 技能	鑑賞の能力
	評価 方法	・課題の提出状況 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①	・授業での取り組み ・提出作品 学習到達目標①	・授業での取り組み ・提出作品 学習到達目標②	・授業での取り組み ・課題 学習到達目標②
	S	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、作品に合わせて表現を工夫することができる。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わうことができる。
	A	書の伝統と文化に関心を持って、表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することができる。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを味わうことができる。
	B	不十分ながら、書の伝統と文化に関心を持って、表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができる。	不十分ながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することができる。	創造的な書表現をするための基礎的な能力は身に付いているが、効果的な表現の技能を表すことが不十分である。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化についての理解は不十分であるが、書のよさや美しさを味わうことができる。
	C	表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことができていない。	自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することができていない。	創造的な書表現をするための、基礎的な能力を身に付けていない。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について理解できておらず、書のよさや美しさを味わうこともできていない。

年 間 学 習 計 画

月	章・単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4	一、はじめに	・実用的な書(硬筆の縦書き・横書き)について、良いバランスを理解し、紙面に調和よく書く	2	硬筆
5	一、書道の世界に触れよう ・書写から書道へ ・用具・用材と姿勢・執筆法	・毛筆で書く場合の姿勢・執筆法を知り、基本点画・多様な線を書く	2	・プリント ・作品提出 毛筆
	二、書道の世界に触れよう	・用具・用材によって線質や味わいが変化することを確認する。	2	・プリント
	三、自分の表現につなげよう	・古典の臨書や鑑賞によって、表現の基礎を学べることを確認する。		
	二、漢字の書に親しもう	・書体の変遷を理解する	1	・プリント
	一、漢字の書体の変遷を知ろう	・楷書の代表的な古典作品を鑑賞・臨書し、それぞれの特徴を理解する	3	
6	二、楷書を学ぼう	・古典の臨書、鑑賞を通して、行書の用筆法を習得する。	8	臨書 ・作品提出 鑑賞
	三、行書を学ぼう	・近代・現代の書を鑑賞して、印象などを話し合う。		・プリント
	四、鑑賞しよう	・創作の手順を理解し、表現したいイメージを古典から見つけ出す。	4	創作
7	五、創作しよう	・紙面構成等に配慮して創作する。	4	・プリント ・作品提出
8		・他の人の作品を鑑賞して、感想を書く。		
9	六、草書・隸書・篆書を学ぼう	・古典の臨書、鑑賞を通して、草書・隸書・篆書の用筆法を習得する。	6	
10	五、暮らしの中の書 Try! 篆刻を楽しむ	・篆刻における印の名称や種類、使い方、用具・用材を理解する。	4	篆刻 ・印稿提出 ・作品提出
		・篆書で姓名印を彫る。		
	三、仮名の書に親しもう	・仮名の歴史・特徴・用具・用材を理解し、基本的な筆使いを習得する。	4	臨書 ・作品提出 鑑賞
	一、仮名を知ろう	・平仮名・変体仮名・連綿を習得する。		
	二、仮名の基本を学ぼう	・古筆の鑑賞・臨書によって、線の特徴や、紙面構成が生み出す美を学ぶ。	8	・プリント
11	三、古筆から学ぼう	・古筆を参考に好きな和歌を選んで、仮名作品を創作する	6	創作 ・プリント
12	四、構成の美を学ぼう	・他の人の作品を鑑賞して、感想を書く。	2	・作品提出
1	五、鑑賞しよう			
	四、漢字仮名交じりの書に親しもう	・漢字仮名交じりの書の歴史を知る。	4	創作
2	一、漢字仮名交じりの書を知ろう	・題材にする語句を考える。	6	・プリント ・作品提出
	二、漢字仮名交じりの書を学ぼう	・これまでの学習を基に、漢字と仮名の調和や、用筆、運筆、用具の工夫、文字の大小配置等の構成の工夫を考え、作品を仕上げる。		
3	三、鑑賞しよう	・他の人が書いた作品を鑑賞して、感想を書く。	4	鑑賞
	四、創作しよう		70	・プリント

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
音楽Ⅰ	選択	2	1	理数科・普通科

科目の概要	●表現領域 「歌唱」・「器楽」・「聴音」・「リズム」・「楽典」。 ●鑑賞領域 音楽の始まりから、それがどのように形を変え現在にいたり、そして未来にどのように展開していくのか。時代を追って色々なジャンルの音楽を聴いてみる。 ※現在音楽系の大学への進学を考えている人、将来音楽関係の仕事に就きたいと考えている人、いつでも相談に乗ります。来て下さい。
-------	---

教材名	教科書	MOUSA ① (教育芸術社)
	副教材	Music Navigation (教育出版)

学習到達目標	(表現) ①歌唱領域 それぞれの曲の特徴を生かして生き生きと表現することができる。 ②器楽領域 演奏を通して様々な作品に触れ表現することができる。 (鑑賞) ③様々な音楽に触れるとともに、時代ごとの特徴を味わうことができる。
--------	---

学習方法	・歌う、楽器を演奏する、練習する、音楽を聴く、説明を聞く、読む、体を動かす、書く、等授業中に行う全ての活動について、積極的に取り組んでください。受け身の姿勢ではなく、一人ひとりの主体的な参加があつて、はじめて授業になります。 ・授業に必要なもの ○教科書 ○音楽史・楽典・ノート ○ファイル(五線紙・プリント) ○アルトリコーダー
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と ルーブリック		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	評価方法	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢 ・学習到達目標①②	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢 ・学習到達目標①②	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢 ・学習到達目標①②	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢 ・学習到達目標③
	S	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組むことができる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、表現意図を持ち、音楽表現を工夫することができる。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身に付け、創造的に表現している。	音楽の要素を知覚、感受し、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わえる。
	A	音楽や音楽文化に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に取り組むことができる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、意図的に音楽表現を工夫することができる。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身に付けて表現している。	音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わえる。
	B	音楽や音楽文化に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、意図的に音楽表現を工夫しようとしている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身に付けようとしている。	音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わおうとしている。
	C	音楽表現や鑑賞の学習に取り組むことができない。	表現意図を持たず、音楽表現を工夫することができない。	音楽表現をするための技術を身に付けようとしていない。	音楽に対して、その良さや美しさを味わうことができない。

年間学習計画

月	章・単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4 5 6	オリエンテーション [楽 典] 基礎① [聴 音] 単旋律 [リズム] 基本パターン [歌 唱] 斉唱、独唱 [器 楽] アルトリコーダー [鑑 賞] 音楽史①	・授業内容、進め方、出席の扱い 評価方法などについての説明。 ・音部記号 ・音符、休符、音名、拍子 ・変化記号、調号 ・4/4拍子、4小節、4分音符 ・基本リズムトレーニング ・「校歌」、「少年時代」 他 自由曲 ・スケールとアーティキュレーション ・歌唱曲と共通曲 ・古代～中世～ルネサンス～バロック	4 8 6 (18)	・プリント ・ノート提出 ・実技試験 リズム 歌唱 器楽 ・平常点
7 8 9	[楽 典] 基礎② [聴 音] 二声 [リズム] クラッピング [歌 唱] 独唱、二部合唱 [器 楽] アルトリコーダー [鑑 賞] 音楽史②	・音程、音階 ・4/4拍子、4小節、8分音符まで ・対旋律 ・基本リズムトレーニング ・「O Sole mio」、他 自由曲 ・「カノン」 他 自由曲 ・古典派～ロマン派	6 2 6 (14)	・プリント ・ノート提出 ・実技試験 リズム 歌唱 器楽 ・平常点
10 11 12	[楽 典] 基礎③ [聴 音] 和声 [リズム] ボディパーカッション [歌 唱] 独唱、混声四部合唱 [器 楽] アルトリコーダー [鑑 賞] 音楽史③ [器 楽] 口琴 (ムックリ) [鑑 賞] 音楽史③	・調性、和音、速度記号、発想記号 ・主要3和音、第一転回、第二転回 ・クラッピングアンサンブル ・「歓喜の歌」 ・「グリーンズリーブス」 他 自由曲 ・ロマン派～近代 ・基本奏法 ・創作曲演奏 ・日本の伝統音楽 ・世界の民族音楽	8 8 6 (22)	・プリント ・ノート提出 ・実技試験 リズム 歌唱 器楽 ・平常点
1 2 3	[楽 典] 応用 [聴 音] 伴奏付 [リズム] アンサンブル演奏 [歌 唱] 独唱、混声四部合唱 [器 楽] アンサンブル演奏 [鑑 賞] 21世紀の音楽 ポピュラー音楽	・記譜、表示、コード、創作 ・4/4拍子、4小節 ・ボディパーカッションアンサンブル ・「校歌」「式歌」 他 自由曲 ・「威風堂々」 他 自由曲 ・近代～現代 ・オペラ～ミュージカル～ポップス	6 6 4 (16) (70)	・プリント ・ノート提出 ・実技試験 リズム 歌唱 器楽 ・平常点

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
美術 I	必修	2	1	理数科・普通科

科目の概要	芸術的な能力を伸ばし、美に対する感性を高めるとともに生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。			
-------	---	--	--	--

教材名	教科書	高校美術 I (日本文教出版)		
	副教材			

--	--

学習到達目標	①基礎的な知識、物のとらえ方の習得と技術・技能も合わせて習得する。
--------	-----------------------------------

学習方法	・身近に存在する物、用具を用いて手仕事の大切さと相応することの大切さを身につけることを学習する。
------	--

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		制作への関心・意欲 ・態度	制作表現の構想と工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
	評価 方法	・制作作品の提出、 完成状況 ・授業への取組姿勢 学習到達目標①	・課題への取り組み 内容 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①	・課題への取り組み 内容 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①	・課題への取り組み 内容 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①・②
	S	制作に関心を持って意欲的に取り組み、多様な表現方法や美術文化に関心を意欲的に持つことができる。	感性や想像力を積極的に働かせて、用具や用材を用いて意欲的に工夫しようとする姿勢を持つことができる。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合ったさらに上の表現方法を工夫することができる。	完成した作品からその美しさや表現の工夫などを感じ取り、美術に対する理解を深めることができる。
	A	制作に関心を持って意欲的に取り組み、多様な表現方法に関心を持つことができる。	感性や想像力を働かせて、用具や用材を用いて工夫しようとする姿勢を持つことができる。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、表現方法を工夫することができる。	完成した作品からその美しさを感じ取り、美術に対する理解を深めることができる。
	B	制作に関心を持って取り組み、多様な表現方法に関心を持つことができる。	用具や用材を用いて工夫しようとする姿勢を持つことができる。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけることができる。	完成した作品からその美しさを感じ取ることができる。
	C	制作に関心をもって取り組むことができる。	感性や想像力を働かせることができる。	美術作品を創造的に表すことができる。	美術作品などの表現を理解することができる。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4 5	・ オリエンテーション ・ 紙を折り曲げての鉛筆写生 (丸型、角型)	・ 1年間の学習の説明 ・ 紙の重なり、その形の立体感等を表現	2 4 4	・ 前期評定
6	・ 石(白い石、黒い石)の鉛筆で写生	・ 石の形状、重量感の表現	8	
7 8	・ 人物描写(自画像)	・ 自分をしっかりと見つめ、思考しながら内面の表現	8	
9	・ 静物写生 (リンゴ、玉ネギ、ジャガイモ)	・ 基本となる立体感、中心線の表現	9	
10 11	・ 静物写生 (器物、ヒマワリ、バック布等)	・ 形状、材質、色を知り、構図やバランス等の動きを組み立てる。	16	
12 1	・ 静物写生 (荒縄魚)	・ 物や骨格を観察して表現する。	9	・ 後期評定 ・ 学年末評定 ※各单元ごとの作品終了ごとに評価
2 3	・ 講評、整理	・ これまでの作品整理、鑑賞、反省	4	

科目名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
音楽表現	選択	2	3	普通科

科目の概要	音楽表現では音楽関係の大学・短大・専門学校への進学希望者を対象に、将来専門的に音楽を学ぼう えて必要な知識や、受験に向けての演習を行います。 具体的には楽典の学習と問題演習により音楽をより理論的な面からもとらえることができる力を養い ます。そしてコールユーブンゲン・新曲視唱・聴音も行いソルフェージュ力もつけていきます。また将 来専攻しようとしている分野に関する実技に関してアドヴァイスを行うとともに、関連する分野の鑑賞 をすることを通じて視野を広げていきます。			
-------	---	--	--	--

教材名	教科書	
	副教材	

学習到達目標	専門的な内容を含む音楽の諸活動を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、音楽系大学受験に対応したソルフェージュの力や知識をつける。
--------	--

学習方法	歌唱(コールユーブンゲン・新曲視唱を含む)、聴音、楽典、ピアノなど進学希望の実態に応じた内容について毎日の積み重ねを大切にしながら練習、学習を進める。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と ループリック		音楽への関心・意欲 ・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	評価 方法	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢	・授業での取り組み ・授業に対する姿勢
	S	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組むことができる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、表現意図を持ち、音楽表現を工夫することができる。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身に付け、創造的に表現している。	音楽の要素を知覚、感受し、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わえる。
	A	音楽や音楽文化に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に取り組むことができる。	音楽を形づくっている要素を知覚し、意図的に音楽表現を工夫することができる。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身に付けて表現している。	音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わえる。
	B	音楽や音楽文化に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、意図的に音楽表現を工夫しようとしている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身に付けようとしている。	音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わおうとしている。
	C	音楽表現や鑑賞の学習に取り組むことができない。	表現意図を持たず、音楽表現を工夫することができない。	音楽表現をするための技術を身に付けようとしていない。	音楽に対して、その良さや美しさを味わうことができない。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4 5 6	オリエンテーション [楽 典] ・理論の学習と問題演習 [実 技] ・将来専攻する分野に関連して	楽典 ・譜表と音名 ・音符と休符 ・リズムと拍子 ・音程 ・音階 ・和音 ・速さ・強さに関する表示法 ・曲想・奏法に関する表示法 実技 ・コールユーブンゲン・コンコーネ ・聴音 ・新曲視唱	18	・プリント ・実技 ・平常点
7 8 9	[楽 典] ・理論の学習と問題演習 [実 技] ・将来専攻する分野に関連して [鑑 賞] ・将来専攻する分野に関連して	楽典 ・音階、調判定を中心に問題演習と解説 実技 ・コールユーブンゲン・コンコーネ ・聴音 ・新曲視唱 鑑賞 ・ピアノ、声楽、管弦、それぞれの分野について理解を深める	14	・プリント ・実技 ・平常点
10 11 12	[楽 典] ・理論の学習と問題演習 [実 技] ・将来専攻する分野に関連して [鑑 賞] ・将来専攻する分野に関連して	楽典 ・総合的な問題演習と解説 実技 ・受験曲へのアプローチの仕方 ・実技試験の実際について(面接を含む) 鑑賞 ・受験曲の背景について	16 (48)	・プリント ・実技 ・平常点

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
美術表現	選択	2	3	普通科・文型

科目の概要	美術の創造、活動を通して美的感覚を洗練し、表現と鑑賞の能力を高めるとともに美術についての理解を深め、美術を愛好する心情を育てる			
-------	---	--	--	--

教材名	教科書	
	副教材	

学習到達目標	①基礎的な知識、物のとらえ方の習得と技術・技能を合わせて習得し、より上の段階へと進める。 ②定期試験は実施しないため、普段の授業への取り組みと、課題の提出状況で判断する。
--------	--

学習方法	・身近に存在する物、用具を用いて手仕事の大切さと相応することの大切さを身につけることを学習します。 ・定期試験は実施しないため、普段の授業への取り組みと、課題の提出状況で判断する。
------	---

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		美術への関心・意欲 ・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
	評価 方法	・制作作品の提出状況 ・授業への取組姿勢 学習到達目標①・②	・制作完成品など課題への取組 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①・②	・制作完成品など課題への取組 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①・②	・制作完成品など課題への取組 ・授業に対する姿勢 学習到達目標①・②
	S	美術の創造活動の喜びを積極的に味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を意欲的に持つことができる。	感性や想像力を積極的に働かせて、自己や社会などを深く見つけ主題を生成し、創造的な表現の構想を練ることができる。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表すことができる。	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術などの理解を深めることができる。
	A	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心を持つことができる。	感性や想像力を働かせて、自己や社会などを深く見つけ主題を生成することができる。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、創造的に表すことができる。	美術作品などの表現の工夫などに関わる美術などの理解を深めることができる。
	B	多様な表現方法に関心を持つことができる。	自己や社会などを深く見つけ主題を生成することができる。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけることができる。	美術作品などの表現の工夫などを深めることができる。
	C	美術の創造活動の喜びを味わうことができる。	感性や想像力を働かせることができる。	美術作品を創造的に表すことができる。	美術作品などの表現を理解することができる。

年間学習計画

科目名 [美術表現]

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4	・ オリエンテーション ・ 人物素描 (自分の顔、首、襟、肩)	・ 1年間の学習の説明 ・ 徹底した形状、内面表現の追求	2 4	
5	・ 静物素描	・ 徹底した形状、質感の表現の追求	4	
6	(白い石、黒い石、荒 縄、水の		8	
7	入った瓶)		4	
8	・ 静物素描	・ 徹底した形状、質感、空気、リズムの	4	・ 前期評定
9	(鳥、向日葵、酒瓶、布)	表現	6	
10	・ 静物着彩写生	・ 透明水彩絵具によるモデルの形状、質感、	8	
11	(ランプ、植物、布)	固有色の表現	7	
12	・ 講評、整理	・ これまでの作品整理、鑑賞、反省	1	・ 後期評定 学年末評定